

平成 27 年度射水市行財政改革推進会議（第 1 回）議事要旨

- 1 開催日時 平成 27 年 5 月 21 日（木） 午前 10 時～午後 0 時 10 分
 - 2 開催場所 射水市役所小杉庁舎 401 会議室
 - 3 出席者
 - (1) 推進会議委員
中村委員（会長）、小林委員（副会長）、荒木委員、海老委員、塚本委員、豊本委員、福島委員、牧田委員
 - (2) 当局
副市長
事務局：行政管理部長、行政管理部次長、財政課長、人事課長、人事課員 4 名
 - 4 傍聴者等 なし
-

会議次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事
 - (1) 平成 27 年度射水市予算の概要について (資料 1)
 - (2) 平成 27 年度射水市の行財政改革の取組について (資料 2)
 - (3) 第 3 次射水市行財政改革集中改革プラン実績報告書
(平成 26 年度分)(案)について (資料 3)
 - (4) 平成 27 年度 事務事業評価(平成 26 年度事務事業
分)について (資料 4)
 - (5) 今後のスケジュールについて (資料 5)
- 4 閉 会

主な意見等

(1) 平成 27 年度射水市予算の概要について

(2) 平成 27 年度射水市の行財政改革の取組について (1)と(2)を一括して審議

(委 員) 今年の越中だいもん凧まつりは、例年 2 日間の開催だったのが 1 日開催になり、旧大門町地域以外から出場する自治会凧への補助金がカットされた。市民の一体感を醸成する事業は縮小すべきでない。

(副市長) 開催日程については、凧まつりの実行委員会の中で協議して、1 日でも十分可能と判断した。

一体感を醸成に関する事業を縮小すべきでないという委員の意見もよく分かるので、イベントの在り方について、今後も実行委員会と相談していきたい。

平成 27 年度予算における越中だいもん凧まつり補助金は 880 万円で、平成 26 年度との比較では 20 万円の減額

(会 長) 凧まつりの事例に限らず、今後行財政改革を進めていくと、今までどおりのやり方では事業の質を維持できないことも出てくる。それぞれの事業において工夫を求めたい。

(委 員) 資料の中の人件費について、一般会計と特別会計の総額が分かるように記載すべき。

また、下水道の不明水対策についてどのような現状となっているか。

(事務局) 不明水対策については、宅内配管からの誤接続の解消により、雨水排水が下水道に流入する量を減らし、有収率の向上につなげたい。

(会 長) 下水道事業は、老朽化対策も含めて課題が多いので、しっかり取り組んでもらいたい。

また、人件費については、今後は資料の中で特別会計を含めた額を示してほしい。

(3) 第 3 次射水市行財政改革集中改革プラン実績報告書（平成 26 年度分）について

(委 員) 収支改善だけが行財政改革の効果ではないので、住民サービスの向上などの金額に表せない効果についても、報告書の中で明記すべき。

指定管理者制度については、制度の導入を推進した結果、事業コストが増大したとしても、直営よりもサービスが向上したといったモニタリング結果が出てくるのであれば、サービスの向上を効果として積極的に明記すべき。

(委 員) 指定管理者制度については、せっかく民間のノウハウを活用するのだから、もっと指定管理者に自由裁量を与えるべき。

(4) 平成 27 年度 事務事業評価（平成 26 年度事務事業分）について

（委 員） 例えば、「指定管理者制度の在り方」というように、多くの事業に共通したテーマについて外部評価の中で取り上げたいと思ったときに、事務事業単位での評価では、単位として小さすぎるのではないか。

（会 長） 過去の外部評価でも同じ意見があり、外部評価の最終報告の中で、外部評価で示された評価の基礎にある考え方は他の事業にも当てはまるので、その考え方を敷えんして自律的な行財政運営に取り組んでほしいという内容を盛り込んでいる。

今回も外部評価の対象となる事業を選定する際には、そのような視点が生かせるよう十分に考慮すべきと考える。

（委 員） 1 次評価（事業担当課による自己評価）では、庁内でのヒアリングが重要になってくと思う。単に細密な評価シートを作成するだけで終わるのではなく、しっかりとヒアリングを行って、「血の通った事務事業評価」にしてほしい。

また、ヒアリングの際には、公共サービスを受ける側の視点に立って評価をしてほしい。

（委 員） 市政全般についての意見だが、全国的な「地方創生」という議論の盛り上がりの中で、これからは、どの自治体も互いに人やものを「奪い合い」する時代に突入していく。

行財政改革によるコスト削減やリスク軽減も大事だが、射水市の付加価値を高める部分にはスピード感を持って資源を集中投資することも大切である。

(5) 今後のスケジュールについて

（特に意見なし）